

市長記者会見記録

日時：2021年8月3日（火）14時00分～14時42分

場所：第3庁舎18階 講堂

議題：（話題提供）藤子・F・不二雄ミュージアムは開館10周年を迎えます

（市民文化局）

市政一般

<内容>

《藤子・F・不二雄ミュージアムは開館10周年を迎えます》

【司会】 それでは、ただいまから定例市長記者会見を始めます。

本日は、初めに話題提供として、「藤子・F・不二雄ミュージアムは開館10周年を迎えます」について福田市長から御説明いたします。市長、よろしくお願ひいたします。

【市長】 まず、市内でも急速に感染拡大している中で、このような明るい話題を提供するのはちょっとはばかるものがありますが、ちゃんとお伝えしなくてはならない事業ですので、御理解をいただきたいと思います。

藤子・F・不二雄ミュージアムの10周年記念事業について、話題提供をさせていただきます。ミュージアムにはこれまで多くの方にお越しをいただきまして、新型コロナウイルス感染症の影響による入館者数の減少もございましたが、今年4月には開館から入場者の累計が400万人を超えたところでございます。こうした中、ミュージアムは9月3日に開館10周年を迎え、様々な記念事業を予定しておりますので、今回はそれらの取組について御説明をさせていただきたいと思います。

最初に、「ポケットミュージアム」の巡回展示でございますが、川崎市ゆかりの藤子・F・不二雄先生の作品に自宅近くで親しむ機会をつくり、多くの方にミュージアムの魅力を伝え、本物のミュージアムに訪れていただけるよう、この挿絵のような小さなミュージアム空間を再現し、先生の漫画の複製原画と資料を巡回展示いたします。今年度は、市立図書館7館を巡回する予定でございます。

次に2点目、漫画『100年ドラえもん』の寄贈でございます。こちらは、株式会社藤子・F・不二雄プロさんから、今年度巡回展示を予定している7区の市立図書館へ1セットずつ寄贈いただけることとなりまして、巡回展示の際の活用を検討いたします。

次に3点目、ミュージアムのFシアターでの新作上映でございます。こちらは9月1日から新作が上映される予定です。詳細は資料を御覧いただきたいと思っております。

次に4点目、ミュージアム直行バスのデザインリニューアルでございます。現在、市交通局におきまして、ドラえもんやパーマンといった藤子・F・不二雄作品のキャラクターデザインの車両により、ミュージアムと登戸駅を結ぶ直行バスが4台運行しております。このバスをこの10周年を機にリニューアルするもので、外装、内装とも、それぞれに異なる新たなデザインで、趣向が凝らされた楽しい仕様となっております。まず、9月3日に2台が運行開始となります。

次に5点目、登戸駅生田緑地口階段装飾でございます。JR南武線と小田急が交差する登戸駅からミュージアムへは、多くの皆様が直行バスを御利用になります。そこで、バス乗り場をより分かりやすくするため、改札口から続く階段の側面を藤子・F・不二雄氏のキャラクターの華やかなデザインで装飾し、スムーズな誘導につながるようにいたします。

次に6点目、登戸駅、新百合ヶ丘駅での10周年記念フラッグの掲示でございます。登戸駅のJRと小田急を結ぶ南北自由通路、そして新百合ヶ丘駅南口に10周年記念のデザインによるフラッグを期間限定で掲示いたします。

次に7点目、川崎駅中央通路壁面広告の掲示でございます。川崎駅の中央通路に、10周年記念のデザインによるポスターを期間限定で掲示します。こちらは、縦3メートル、横9メートルの大きさで、皆様の目を引くものになると思っております。

現在、藤子・F・不二雄ミュージアムでは、10周年記念企画といたしまして、「藤子・F・不二雄ミュージアム10周年記念原画展」を開催しております。開館以来、子供たちの夢と希望を育み、藤子・F・不二雄先生の夢、希望、友情、勇気、大いなる好奇心、そして人を愛する気持ちなどの大切なメッセージを発信してきました。これからも、この10周年を一つの契機といたしまして、本市とミュージアムとが一体となって、市民の皆様、来館された方々に楽しんでいただくとともに、地域の活性化につなげてまいりたいと思っております。

最後に、資料をお配りしておりますけれども、『ドラえもん』の「のび太」由来の名前がつけられました恐竜の足跡化石のレプリカが8月14日からミュージアムで展示される予定です。資料にも概要は書かれておりますが、本日は株式会社藤子・F・不二雄プロの方も同席されておりますので、御質問がありましたらお答えいただければと思います。

私からは以上です。

【司会】 それでは、ただいま御説明をいたしました話題提供の件と市政一般に関する質疑に入らせていただきます。進行につきましては、幹事社様、よろしくお願いいたします。

【毎日（幹事社）】 幹事の毎日です。まず最初に話題提供から、あと、市政一般に移りたいと思います。10年で400万人を超える人が来たということで、まちづくりには貢献していると思うんですけど、最後にそういうコメントもありましたけど、改めて、このミュージアムの評価とこれをどういう位置付けでまちづくりに生かしていきたいのかというコメントをいただけますか。

【市長】 本市にゆかりのある藤子・F・不二雄先生の作品は、世界的に価値あるものが、この川崎市で見られるということは、川崎市のプレゼンスを大いに高めてくれている施設だと思いますし、今はコロナで海外からの皆様、お越しになりませんが、コロナ前は20%を超える方が海外のお客様ということで、そのような施設は川崎市内には類を見ないと思います。そういう意味では本当に唯一無二の場所だと思いますし、コロナ後には、また多くの皆さんに来ていただきたいと思っています。現在、感染対策をしっかりとやって、4回入れるところを7回に小分けして少人数に絞ってという、そういう工夫をしていただきながら運営しております。

【毎日（幹事社）】 2番目の『100年ドラえもん』という、これは本、単行本みたいな漫画本ということですよね。

【市長】 はい、そうです。

【毎日（幹事社）】 これを巡回展示ということなんですけど、展示して、中をぺらぺらとめくって読んでもらうという感じになるんですか。

【市長】 そうですね。

【毎日（幹事社）】 貸し出すとかということじゃなくて、展示ですよ。

【市長】 はい。

【毎日（幹事社）】 これをあちこちで見られるように置くということですね。

【市長】 はい。

【毎日（幹事社）】 これは、ミュージアムから寄贈を受けたものであるということですね。

【市長】 はい、そうです。

【毎日（幹事社）】 バスは、これは市バスでいいんですよ。

【市長】 はい、そうです。

【毎日（幹事社）】 取りあえず、まず2台という話でしたけど、その後は特に増やす

とか増やさないとか、今のところ、考え……。

【市長】 2台ですね。事務方からでもよろしいですか。

【市民文化局】 資料に書かれていますとおり、9月3日の開館10周年のときには2台お披露目ということになります、その他の2両は11月と翌年の1月にお披露目ということになります。

【毎日（幹事社）】 それはどこかに書いてありますか。

【市民文化局】 すみません、資料のバスのところの、吹き出しみたいなところに。

【毎日（幹事社）】 ああ、吹き出しのところね。

【市民文化局】 ええ。分かりづらくて申し訳ございません。

【毎日（幹事社）】 これがまず2台と、後でまた2台と。

【市長】 そうです。11月中旬に1台、来年1月下旬に1台、計4台ということですよ。

【日経（幹事社）】 幹事社の日経新聞です。よろしくお願ひします。Fシアターの新作上映って、通常、新作というのはどれぐらいのペースで入れていらっしゃるんですか。

【市民文化局】 年に1回ぐらいだそうです。

【日経（幹事社）】 それがたまたまこのタイミングだったということなんですか。

【市民文化局】 はい。10周年に合わせて新作を公開するということになります。

【日経（幹事社）】 あと、このレプリカなんですけど、中国で最近発見されたものなので、藤子プロさんのほうで中国へ行ってとか、どのような経緯というか、やり方で、レプリカって取って日本に入れているのか、詳細が分かれば教えていただければ。

【市長】 藤子プロの方からでよろしいですか。

【(株)藤子・F・不二雄プロ】 藤子プロです。これはもう本当に、発見して、命名してくださった中国地質大学、北京の大学なんですけど、シン准教授が名付けて、その先生が子供の頃から『ドラえもん』の大ファンで、ここに書いてあるとおり、去年公開された「のび太の新恐竜」という映画を御覧になって、のび太が恐竜に自分の名前を付けたって言って付けるシーンがあるんです。それを見て、のび太の夢をかなえたいということで、まず、もうあちらで命名されて、それで私どものほうに話が来まして、そういった流れで、ぜひあちらからもレプリカを藤子プロに寄贈したいということで頂きました。

【日経（幹事社）】 分かりました。

【毎日（幹事社）】 じゃ、この件に関して、各社、どうぞ。

【神奈川】 神奈川新聞ですが、細かい話なんですけど、今のノビタイについて、シン准教授のフルネーム、分かりますか。

【(株) 藤子・F・不二雄プロ】 リダ・シン准教授です。

【神奈川】 リダが名字ということですかね。

【(株) 藤子・F・不二雄プロ】 だと思います。

【神奈川】 ありがとうございます。

【(株) 藤子・F・不二雄プロ】 大体報道等では、シン准教授という形で今までもさ
れています。

【神奈川】 そうなんですね。ありがとうございます。

【東京】 東京新聞ですけれども、この「ポケットミュージアム」の試みというのは、
これまでされたことがあるのかどうか伺えますでしょうか。

【市長】 これは初めてです。

【東京】 10周年に合わせて。

【市長】 はい、10周年。

【東京】 本年度中ということなので、来年の3月末までに7か所回るという理解に
なりますか。

【市長】 はい、そうです。

《市政一般》

《新型コロナウイルス感染症関連について》

【毎日（幹事社）】 あと、この件は特によろしいですか。

じゃ、市政一般に。新型コロナウイルスもすごい勢いで400人を突破しましたけれども、月曜か火曜ということで、その後分からない状態なんですけど、一方で、死者はかつてほどではないみたいな感じはしますけれども、その辺の状況を今どういうふう
に受け止めていますか。

【市長】 本当に激増していて、感染が下がる傾向は全く見られないことに、いまだかつてない危機感を覚えております。入院患者も、今朝の時点では重症ベッドが30床のところ、28床が既に埋まっている状態で、現在、全体で言いますと、昨日、8月2日時点で162床が埋まっている状況でございます。第3波を超えて過去最高の入院者の数になっています。9割が高齢者ではない、いわゆる現役世代と言われる方なので、若年層でも重症化、中等症という方が非常に増えているということであり
ます。医療調整が非常に困難になってきておまして、正直、今、県内でも非常に急

増しているところなので、退院される方よりも入院されている方のほうが圧倒的に多いことになっているので、この数日間の伸びはちょっと異常な状態を示しております。ということで、繰り返しになりますけれども、いまだかつてない危機感という状況だと思っています。

【毎日（幹事社）】 今、人繰り困難というような話がありましたけれども、内部の人の配置というか、この間、コロナの対策会議で人員のこともちょっと出ていましたけれども、その辺の今考えていることって何かありますか。特に人を動かすとか、そういう……。

【市長】 今朝の会議でも共有したんですけれども、各区の衛生課を中心に、もう人手が足りない状態になっているので、所属に関わらず、今、応援体制に入っている状況でございます。とにかく今、区の業務も非常に大変なことになっているので、本庁からの依頼事務みたいなものをなるべく控えるようにということで緊急対応している状況でございます。ですから、もう本当に急ぎではない、今すぐやらなければならない仕事以外のところは少し控えて、とにかく応援に回っていくということを現在やっているところです。

病床の確保については、この前の本部会議でも申し上げましたが、引き続き増やしていただく努力はしていただいているんですが、プラスアルファ、各病院に対するご協力をお願いを改めてしていかなきゃいけないと思っております。

それから、在宅でおられる、いわゆる軽症の方も含めてですけれども、そういったところに対するバックアップも、地域の医療機関、医師会中心に御協力をお願いしているところがございます、その体制も現在進行形で進めているところです。

【毎日（幹事社）】 現場に応援を出しているという話ですけど、もうかなりの人数で出しているんですか。

【市長】 それは市役所ということですか。

【毎日（幹事社）】 先ほどの話だと、本庁から区役所にというような話だと理解しましたけど。

【市長】 ええ。出ていますし、これからもそういう体制を取っていきたいと思います。

【毎日（幹事社）】 大人数で出ているんですか。今の段階で何人……。

【市長】 いや、それほど多い人数ではありませんけれども、まず、区役所の中で今調整をしているのがメインになります。

【毎日（幹事社）】 じゃ、今後はそれが足りなくなったら、また本庁から出すことも

検討していくという……。

【市長】 オール市役所で対応しなくちゃいけないと思っています。

【日経（幹事社）】 幹事社の日経新聞です。ワクチン接種についてですけど、若年層を中心に、副反応であるとか、効果についての疑念を持って接種をしたがらないという調査も出ています。川崎市の場合も、7月31日から若年層向けの受付を始めていますけれども、今のところ、予約状況というか、その辺の反応ってどんなような出足なんでしょうか。

【市長】 先週の土曜日に全ての世代にオープンになったわけですけども、やはり1時間程度で予約が埋まってしまうということなので、そういった意味では、まだまだニーズと提供がマッチしていないということは思いますが、それと、ワクチンの供給量との見合いですので、そこは何ともいかんともし難いと思うんですが。現時点では、20代の1回目の接種率は10%となっています。

【日経（幹事社）】 さほど若年層が接種をいとう感じではないということですか。

【市長】 今、SNSだとか、デマのような話がたくさんあふれていて、それに影響されているというのは、もう至る所で聞きます。医療機関でもそういうことを言っておられるので、一定程度のところ、まず頭打ちが来るんじゃないかということは思っています。ですから、正しい情報を提供するために、いろんな商業施設だとかというところで、広報だとかを呼びかけておりますけれども。

【日経（幹事社）】 分かりました。神奈川県、緊急事態宣言が発出されて、多くの飲食店とかサービス業というのが、引き続きなかなか出口が見えにくいということなんですが、去年、市長、じもと応援券みたいなことで、いろいろ独自の政策を打ち出されましたけれども、事業者に対しての独自の経済的な対策をお考えでしょうか。

【市長】 今後のことについては、いろいろ考えてはおりますけれども、現時点では、これ、いつもバランスの問題なんですけど、この激増フェーズにあって、商業振興だとか、あるいはサポートという気持ちはあるんですが、とにかく人の流れを止めたいというのがもう最大のミッションだと思っております、そこに全神経を集中させていかなくちゃいけないと思っています。

【日経（幹事社）】 取りあえず、そこを優先的に考えて、それからということですか。

【市長】 はい、そうです。

《令和3年度普通交付税の算定結果について》

【日経（幹事社）】 分かりました。

あと、今日、総務省から普通交付税、川崎市、6年ぶりに交付団体に転じるという発表がありましたけれども、これを受けて、市長の感想といたしますか、どのようなお気持ちでしょうか。

【市長】 今年度は当初から交付団体になると見込んでいて、読みとしては読みどおりだったという形であります。

【日経（幹事社）】 何か御感想というか、こうなっただうでしょうか。

【市長】 私たちのところって、交付団体、不交付団体のところは、いつもぎりぎりのところで、その微妙な線で、ある意味、不交付団体だからこそ苦しんできた部分もあって、そういった意味では非常に複雑です、思いとしては。交付団体でいいのかというと、はっきり言って、全自治体が不交付団体にならなくちゃいけないということだと思っので、そういう意味ではものすごく複雑です。そういう意味では、今後は目指すところは、ぶっちぎって不交付になることを本当は目指していかなくちゃいけないと思っますし、そのような市政運営をやっていかなくちゃいけないと思っています。

【日経（幹事社）】 分かりました。

【毎日（幹事社）】 では、各社、どうぞ。

《新型コロナウイルス感染症関連について》

【神奈川】 神奈川新聞ですけれども、先ほどの医療についてですけれども、コロナ病床については増床も引き続き働きかけていくということですが、一般の医療について、今、それがどれだけいじめられているのか、一般医療の現状について教えていただけますでしょうか。

【市長】 現時点で、どここの診療科を潰してとかというところには出てきていないと思っますが、例えば、聞いている話でいきますと、今、熱中症が多くなってきているので、熱中症でも非常に危険で命を落とす危険があるものですから、熱中症のことを考えると、コロナ病床に転換できないのか、逆にそういった難しさもあると聞っていまして、そういう意味では、常にコロナと通常医療との、どこにバランスを取っていくかが、各病院、非常に苦しいところだして、単純に増やせるかって言ったら、通常医療だとか救急だとかというものにも影響が出てくるので、ただ、これ以上増えていくと、当然病床を拡大していく、前回と同様ですが、通常診療にも当然影響が出てきてしまうことになりまっす。

【神奈川】 手術の延期とか、そういう話もネットでは、そういうことをせざるを得ない状況も東京とかで出てきているとか、いろいろあると思っうんですけれども、川崎

の場合はそういう状態に行くには、まだしばらく余裕が少しはあるということなんでしょうか。

【市長】 実は、この数日間の伸びというのは、要は、先週話していたフェーズと今週は全く違うので、週の前と週が明けて今日という段階では全然違うので、そういった意味では、病床の扱いみたいなものも、明日どうなるか、あさってどうなるかは、今、確定的なことは申し上げられないような状態だと思います。県内の重症病床も、1日でもものすごい伸びを見せているのが午前中の会議でも出ていまして、今日、1日どれだけの患者が出てくるのかというのが、本当にドキドキというか、そこで救えない命が出てくることの危機感は、今までに経験したことがない感覚です。

《令和3年度普通交付税の算定結果について》

【神奈川】 あと1点、全然別件なんですけれども、先ほど、ぶっちぎって不交付団体になるような市政運営をとということですが、それに向けてはどういったことをしていく、あるいは、見通しとしてはどうでしょうか。

【市長】 やっぱり1つは税源培養をしっかりとっていくということだと思うんです。それは、拠点整備をしっかりとっていくことも大事ですし、それから産業という意味でも、これからも展開していくことをやっていかなくちゃいけない。例えば、研究機関、キングスカイフロントもそうですし、今後のJFEのところもそうですし、あるいは新川崎の量子コンピューターのエリアもそうですし、こういったところで新しい産業をどんどん生み出していくことが、法人関係税とかということだけじゃなくて、集まってくる方たちの税収、個人市民税、固定資産税という形にも反映されてきますので、そういったことに引き続き注力していかなくちゃいけないと思っています。

【神奈川】 ありがとうございます。

《新型コロナウイルス感染症関連について》

【読売】 読売です。各紙報じていますけれども、政府が入院の基準見直しというのか、重症及びその周辺に限るといような方向を打ち出されて、ただ、その辺の判断は自治体に委ねるといことも言っているようなんですけれども、現時点での御感想なり、どうしようかというあたり、何かおっしゃれることがあればお願いします。

【市長】 今の政府がおっしゃっているのは方針転換だとは思ってなくて、むしろ現実にもう病床が入れないという状況の結果の話をしているんじゃないかと思わざるを得ないというか。重症患者も増えてきますので、そうすると、おのずと中等症のベッドも重症に切り替えざるを得なくなる。ですから、方針転換というよりもむしろ、もう受け止められないことの事実を伝えているにすぎないと思っていて、それは非常

に深刻だと思っています。ですから、正直、中等症の方が自宅にいるというのは、恐らく医療現場からすると危険極まりないことだと理解されていると思います。

【読売】 その状況というのは、市長の川崎市内の状況への認識もそこに重なっているということですか。

【市長】 そういうことです。川崎市内の状況を見てもそうですし、神奈川県内の状況も、私、全ての情報を持っているわけではありませんが、聞き及んでいる範囲では非常に危険な状態だとは思っています。

【朝日】 朝日新聞です。重ねてなんですけれども、厳しい状況、あえて伺いますけれども、例えば第3波のときですと、入院するのが高齢者が多くて、重症用に用意したベッドを数週間も埋めるような状況が結構見られたかと思うんですね。今、逆に、高齢者のところが1割で9割が現役世代ということで、始まってからがあれですけど、例えば病床の回転が、さほど重症病床を埋めている期間が長くなく、この間、改善された下り搬送とか後方支援の病院のところうまく回るとか、そういった質的な差は3波のときと比べては見られているんですか。

【市長】 下り搬送の部分って、前は出てきてなかった部分というのは、医療機関に御協力いただいてという体制は取れていますけれども、しかし今、下り搬送というよりも、とにかく、まず激増しているところなので、要は、これからの話でありますけれども、疑似症みたいのを受け入れるという、そういう話も、いや、もう陽性患者を入れてくださいという、そういう形にしていけないとベッドが足りないという状況です。と、とにかく、まずは入れるという……、出さなくちゃいけないということはそうなんですけれども、若い年齢になって、今現時点、何日が平均入院日数になっているのか、私、確認していませんが、何か事務方で説明できることありますか。

【健康福祉局】 保健医療政策室でございます。今の記者の御質問なんですが、確かに、高齢者の入院日数よりは、現状においては短くなっているのは事実です。ただ、統計を正確に取ってございませんので、何日が何日になったということは申し上げられないんですが、事実としてそういった形になってございます。

以上です。

【朝日】 あと、在宅で療養する人のケアのことなんですけれども、保健所であったりとか開業医の方々が主にケアをする側にはなるかと思うんですけど、開業医のところは、ワクチン接種も一つの柱として行っていて、従来から在宅医療を積極的に手がける開業医は割合としてはそんなに多くないわけなんですけど、その辺り、何か市としてインセンティブみたいなものを考えてられたりはするんでしょうか。

【市長】 今、在宅を中心にやっている法人なんかもあって、そことも連携できるかというのも医師会とも相談していて、そういう連携を含めて、御指摘のように、そもそも在宅をやっておられる開業医の方もそんな多くないし、ワクチン接種等々いろいろありますので、そういったマンパワーも借りながらとは思っています。

【朝日】 朝日新聞ですけれども、日々の市から発表されている感染者の情報でいくと、重症者はほとんど毎日ゼロ、もしくは1人いるかいないかぐらいだと思うんですが、しかし、先週の13人から28人まで急増しているという、これは何なんですかね。軽症者が悪化することが頻発しているということなんですか。

【市長】 まず、そもそもが母数が大きくなっているのはこれはもう間違いないことだと思いますし、この前の本部会議のところでもお話をしましたけど、基礎疾患をお持ちの方とかは重症化しやすいのはこれまでとあまり変わってないという話ですし、あえて言えば、母数が大きくなってきていることが最大の原因だとは思っています。

【朝日】 日々の新規感染者の発表資料を見ると、数は400人とか400人を超えるような大きい数であるのは分かるんですけども、軽症者が大半で、あと無症状者、中等症以上はあまりいない状況から、今おっしゃられたように、重症病床が埋まっていくという、ここが恐らく発表を見ている市民の方たちも、えっという感じになるんだと思うんですけども、ここは、やっぱりデルタ株になってから重症化が著しいのか、あるいは重症化というのはもともとあったんだけど、ここは母数がまさに増えているからこうなっているということなのか。

【市長】 専門的な話なので何ともあれなんですけど、何か答えられることってありますでしょうか。

【健康福祉局】 保健医療政策室でございます。確かに、デルタ株に置き換わっていく中で、御存じのとおり、デルタ株は重症化率が従来株より高まっているのが統計データ上示されております。

一方で、先ほど申し上げたとおり、罹患者の年齢層は現役世代に移行しておりますので、もともと基礎体力がある方々なので、重症化する率は高齢者よりは低いという傾向にあったんですが、今、市長が説明させていただいたとおり、圧倒的に分母が増えている中で、やっぱり基礎体力がある中でも、一定割合の方で基礎疾患があるような方がいらっしゃって、それが掛け算で増えてしまっている状況になっているんだと推察してございます。

以上です。

【朝日】 そうすると、新規の段階では軽症の人がその後重症になっていることも結

構多くあるということですか。

【健康福祉局】 はい。軽症、中等症で入院をされた方が、ある日を境に重症化するというケースはあります。

【朝日】 分かりました。

【東京】 先ほど、市長の認識の中で、中等症の人が自宅にいるという状況はとても危険極まりないんだという話をされていて、現状、川崎市内の圏内も非常に危険な状況であるということだったんですけれども、そうすると、中等症の患者さんが自宅にいるという状況が、もう既に起きているのか、それとも、これはもうすぐ近い将来に迫っているという感覚なのか、現状認識を伺えますでしょうか。

【市長】 まず現状としてですけれども、現時点でも入院が必要だろうという数値を見ている方でも入院調整ができない、要するに、ベッドが今すぐ用意できないという待機状態になっている事実があります。ですから、既にその状況はもう来ているということです。これから、ますます明日、あさってという形で分母がどんどん増えていきますと、その状況は、今でも調整が非常に困難になってきていますので、軽症から中等症になってという段階でも、なかなか病院に御紹介できない、あるいは救急車を呼ぶんだけど、救急車から病院に搬送できないという、第3波のときよりも深刻な状況が来るのではないかとということが考えられるということです。

【東京】 そうすると、もう既に、この週明けぐらいからそういうことが起き始めているという認識でしょうか。

【市長】 そうですね。そういう認識です。

【東京】 今まで、第3波以上に、明日、あさってと1日置きに、より悪い方向に変わっていくんじゃないかということを今、非常に懸念していらっしゃるという……。

【市長】 はい、そういうことです。

【東京】 分かりました。

【読売】 そうしますと、自治体でできることは限られているのかもしれませんが、例えば、今、住民へ何か呼びかけるべきことがあるのかを含め、現時点で対策をお考えのことはございますか。

【市長】 今、いろんなことを考えておまして、候補としてはたくさん、たくさんほど武器はないんですけれども、やれることはないかを検討しているところです。ただ、例えば、市民利用施設を封鎖するという話にしても、この時期、そこを閉めたことによって、ますますどっかに集中させてしまうのではないかと懸念ですとか、メリット、デメリットを様々考えながらやっています。あるいは、本市だけの取組で

それが効くのかという、もう少し広域的な取組が必要なのではないかと、あらゆる方策を今検討しているところですが、いずれにしても一長一短、効果と逆のリスクみたいなものを勘案しながら検討しているところです。いずれにしても、急がななくちゃいけないとは思っています。

【毎日（幹事社）】 あとはよろしいでしょうか。

【司会】 よろしいでしょうか。

それでは、以上をもちまして終了とします。ありがとうございました。

(以上)

-
- ・この記録は、重複した言葉づかい、明らかな言い直しや質問項目などを整理した上で掲載しています。

(お問合せ) 川崎市役所総務企画局シティプロモーション推進室報道担当

電話番号：044（200）0312